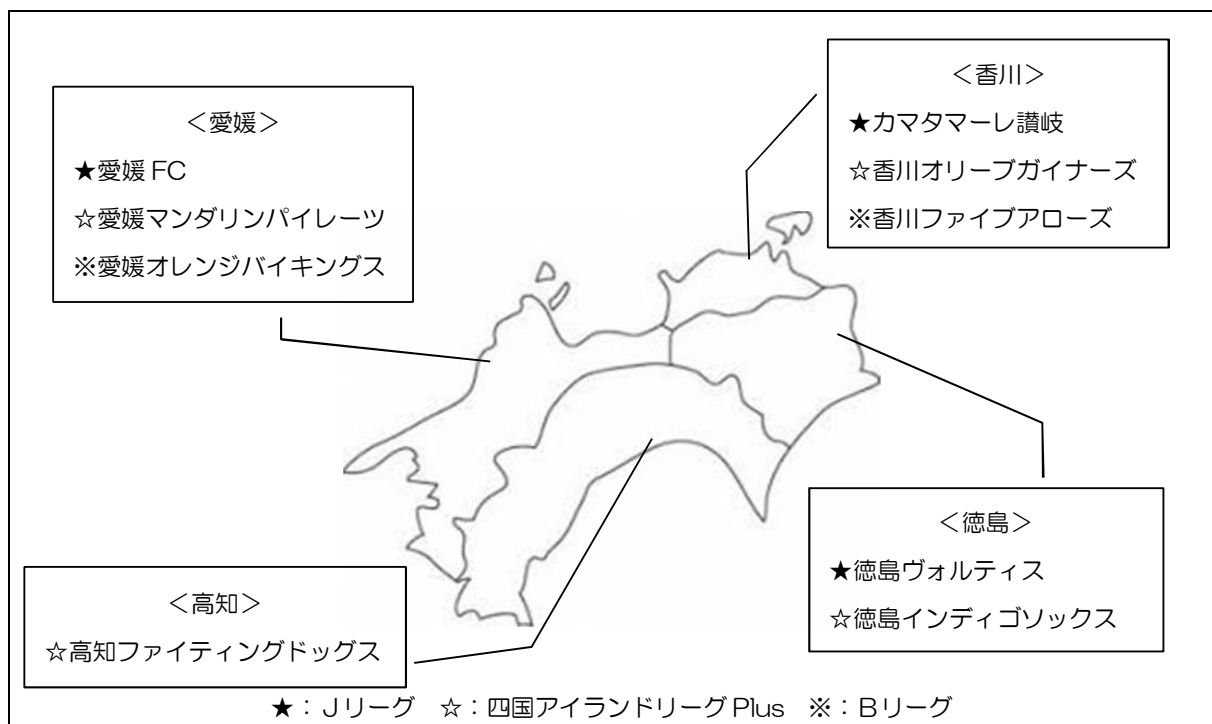


News Letter

2018
Summer issue

平成 30 年 8 月 6 日発行

*Japan Society of Physical Education, Health and Sport Sciences
Division of Sociology of Physical Education and Sport*



四国にあるプロスポーツチーム・クラブ

日本体育学会
体育社会学専門領域

事務局：

〒352-8558

埼玉県新座市北野 1-2-26

立教大学コミュニティ福祉学部

松尾哲矢 研究室内

Tel & Fax: 048-471-7345

E-mail: tmatsuo@rikkyo.ac.jp

< 目 次 >

故桑野豊先生追悼文	1
2018 年度総会のご案内	2
2018 年度研究会のご案内	2
第 69 回大会スケジュール	4
一般・ポスター発表プログラム	4
シンポジウム	8
第 69 回大会発表形式	8
「年報体育社会学（仮称）」の 原稿募集について	9
事務局より	9

糸野豊筑波大学名誉教授を偲ぶ

杉本厚夫（関西大学）

日本体育学会体育社会学専門分科会会長をお務めになった筑波大学名誉教授糸野豊先生が、2017年12月22日に93歳でご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げますと共に、先生との思い出を書かせていただき追悼とさせていただきます。

私は筑波大学大学院1期生として入学した1976年に指導教官としてご指導いただきました。先生は筑波大学に着任される前に文部省体育局に在籍されていて、保健体育審議会の「体育・スポーツの普及振興に関する基本方策について（答申）」（1972年）の作成に尽力されました。この答申は、とりわけ体育・スポーツ施設整備基準が示され、これまでの競技施設から日常生活圏域における施設を重点的に整備することを目指すという画期的なものでした。当時は、「社会体育」あるいは「生涯体育」という言葉が使われていましたが、いわゆる市民スポーツの振興が始まった時期で、先生はその先駆者と言えます。

ゼミでは、その答申のもととなった西ドイツ（当時）の「ゴールデンプラン」の原書購読をしました。ドイツ語に悪戦苦闘している私に、いつも柔和なお顔で、親切かつ丁寧に指導して下さい、何とか理解することができました。そして、午後5時を過ぎると「仕事の終了時間だ。ちょっと飲もうか」とウイスキーのお湯割りを一緒にいただきました。そこからが本当のゼミの時間で、たくさんのことを学びました。とりわけ、先生は **Social Function** を口癖のようにおっしゃっていて、スポーツの社会的機能を研究することが重要であると教えていただきました。その背景には、R.K.マートンの社会学理論があることを知り、これが私の博士論文の基礎理論となりました。

また、先生は社会現象が起きている実践現場を大切にされていました。当時、社会体育の分野で先進的な取り組みをしていた明石市に調査に伺いました。そこで、まず現場に足を運び、そこでの実践の課題を体感したうえで研究に臨むという姿勢を学びました。

社会的な活動としても、当時、競技スポーツを統括する日本体育協会にあって、市民スポーツを振興するための「国民スポーツ委員会」に委員として関わられ、その普及に努められました。さらに、1980年には在野の自主的な研究会として「みんなのスポーツ全国研究会」を主宰し、市民スポーツの実践研究を進められました。

このように、研究と実践に精力的に取り組まれ、日本の市民スポーツの礎を創ってこられました。その意味では、日本における市民スポーツの父といっても過言ではありません。先生はドイツのスポーツ行政に造詣が深く、当初から現代の総合型地域スポーツクラブ等の豊かな市民スポーツのあり方を予見されていたのに違いありません。そのご遺志は、先生から見れば第3世代に引き継がれ、成熟社会の市民スポーツの在り方について、さらに研究が進められていることをご報告し、追悼の言葉としたいと思います。

2018年度 専門領域総会のご案内

日本体育学会第69回大会の2日目に専門領域総会を下記のとおり開催します。

日時：2018年8月25日（土） 12時40分～13時40分

会場：徳島大学常三島キャンパス 4号館 301

2018年度 専門領域研究会のご案内

テーマ『教員の働き方改革におけるスポーツ活動の問題と 保健体育教師のアイデンティティ』

1. 目的

（一社）日本体育学会体育社会学専門領域の研究の恒常的な振り返りと検証、さらに今後の研究の方向性を考究し、体育社会学専門領域会員相互の研究交流を促進することを目的として開催する。

2. 日時

2018年8月23日 13:00～16:00（17:30頃から懇親会）

3. 会場

とくぎんトモニプラザ（徳島県青少年センター）

徳島県徳島市徳島町城内2番地1（JR徳島駅から徒歩10分）

4. 趣旨

「ブラック部活動」の問題が社会的に大きな関心事となる一方、関連しつつも他方では、学校教員の「働き方改革」が大きな社会的課題として取り上げられている。教師文化や学校文化の持つ問題点、保護者や地域が持つ問題点など、「部活動リスク」をめぐるなどの議論がメディアを通して活発に行われ、部活動をめぐっては様々なガイドラインや部活動外部指導員制度の整備など新たな制度設計が始まっている。こうした取り組みは、学校教員全般の働き方改革の問題に強く繋がりを持つものである。

ところが、このような部活動をめぐる議論の中で、部活動反対論を唱える多くの教師の声が取り上げられる一方で、部活動に熱心な教師の声は比較的とりあげにくい状況もなくはない。メディアの持つ政治性や、高度に情報化した現代社会の持つ課題という面も含めて、さらにはそもそも、保健体育教師の職業的アイデンティティ形成にとどまらず、個人史としての問題も含めて、体育社会学からの取り上げ方は、おそらくもう少し広さと深さを用意することが期待される場所である。

そこで、本プレセッションにおいては、社会空間、伝統、総合型地域スポーツクラブ、若者スポーツ、教育的価値などの観点から、体育という教育営為の機能についてあらためて整理するとともに、教員の働き方改革という問題の背景をスポーツ活動・部活動との関係から社会的なパースペクティブから深く探り、保健体育教師のアイデンティティや、そもそもスポーツ活動を教育的な営みの中で受け取っている子どもたちの視点からも議論を広げ、今後の研究関心を触発することをねらいとしてみたい。

5. 内容

【登壇者】

下竹亮志 氏（筑波大学体育系）

「運動部活動の指導者は何を語ってきたのか？」

谷口勇一 氏（大分大学教育学部）

「部活動と総合型地域スポーツクラブの連携『失敗』からみえた教員文化」

石坂友司 氏（奈良女子大学生生活環境学部）

「学校のスポーツ活動が地域や社会空間に与える影響と教師の社会的機能」

【コメンテーター】

北村尚浩 氏（鹿屋体育大学体育学部）・原祐一 氏（岡山大学教育学部）

【司会】

高橋義雄 氏（筑波大学体育系）

6. 参加費

1,000 円

懇親会費：4,000 円（学生 3,500 円）

7. 参加申込方法：

下記内容を以下のアドレスまでお知らせください。

E-mail：mizukami5.h@gmail.com（事務局次長 水上(日本大学)）

- | | |
|---|-------------------|
| ① | 研究会（参加します・参加しません） |
| ② | 懇親会（参加します・参加しません） |
| ③ | 専門領域（会員・非会員） |
| ④ | 氏 名 |
| ⑤ | 所 属 |
| ⑥ | メールアドレス |

8. 参加受付〆切日時：

2018年8月13日(月)〆切

問い合わせ先：

研究会に関してご不明な点がございましたら、下記事務局までご連絡ください。

体育社会学専門領域

事務局長 松尾哲矢 E-mail：tmatsuo@rikkyo.ac.jp

事務局次長 水上博司 E-mail：mizukami5.h@gmail.com

第 69 回大会スケジュール

1. 大会日程 2018 年 8 月 24 日 (金) ～26 日 (日)
2. 開催会場 徳島大学常三島キャンパス
3. 体育社会学専門領域プログラム

<8 月 24 日 (金) (1 日目) >

10:10-12:00 口頭発表①～④ (4 号館 301/302)

12:00-12:50 評議員会 (4 号館 302)

13:00-17:50 口頭発表⑤～⑭ (4 号館 301/302)

<8 月 25 日 (土) (2 日目) >

9:00-11:50 シンポジウム (4 号館 301)

12:40-13:40 総会 (4 号館 301)

13:30-14:30 ポスター発表 (共通研究棟 K602)

13:45-15:00 口頭発表⑮～⑯ (4 号館 301/302)

第 69 回大会一般発表・ポスター発表プログラム

— * — * — * — * — * — * — 【8 月 24 日 (金)】 — * — * — * — * — * — *

口頭発表①/会場 4 号館 301

座長：谷口勇一 (大分大学)

10:10 清宮孝文 (日本体育大学大学院)

「大学生活不安の年次推移と運動部活動ドロップアウト者に関する研究

: 体育系大学の学生に着目して」

10:35 大勝志津穂 (愛知東邦大学)

「学校運動部活動の種目別活動実態と生徒の希望活動状況

: 12～21 歳のスポーツライフに関する調査 2017 の 2 次分析」

口頭発表②/会場 4 号館 302

座長：山田理恵 (鹿屋体育大学)

10:10 田嶋大樹 (東京学芸大学大学院)

「放課後児童支援員のかかわりと子どもの運動遊びの生成に関する研究」

10:35 田中嵐 (東京学芸大学大学院)

「伝承遊びの『スポーツ的リメイク』に関する一考察

: 『ベーゴマ』と『ベイブレード』に着目して」

口頭発表③/会場 4 号館 301

座長：橋本純一 (信州大学)

11:10 中山健二郎 (立教大学大学院)

「高校野球にまつわる「物語」の変容に関する一考察

: 朝日放送テレビ『熱闘甲子園』の分析を通じて」

11:35 張瓊方（台湾実践大学）

「人と自然と地域をつなぐ台湾『創意宋江芸陣大会』」

口頭発表④／会場 4号館 302

座長：水上博司（日本大学）

11:10 倉品康夫（帝京大学）

「効果的に正座の耐性を高める指導方法の可能性について

：正座の構造を考えつつ正座耐性要因を検討する」

口頭発表⑤／会場 4号館 301

座長：原祐一（岡山大学）

13:00 北村尚浩（鹿屋体育大学）

「体育の授業における武道の楽しさ」

13:25 高平健司（筑波大学大学院）

「嘉納柔道思想の形成過程からこれからの武道教育における教育理念について考える

：固有性としての国民道徳と普遍性としての国際道徳という視点から」

口頭発表⑥／会場 4号館 302

座長：小坂美保（神戸女学院大学）

13:00 森本拓也（東京学芸大学大学院）

「プロ野球における「アンチ」現象と応援行為」

13:25 井上智介（東京学芸大学大学院）

「遊びの『深さ』と応援団：東京六大学野球におけるフィールドワークを通して」

口頭発表⑦／会場 4号館 301

座長：石坂友司（奈良女子大学）

14:00 中澤篤史（早稲田大学）

「日本中学校体育連盟の財務状況に関する分析：1989年の財団法人化のプロセスに注目して」

14:25 日高裕介（早稲田大学大学院スポーツ科学研究科）

「わが国における運動部活動の伝統に関する研究」

口頭発表⑧／会場 4号館 302

座長：吉田毅（桐蔭横浜大学）

14:00 東明有美（関東学園大学）

「スポーツ選手の国際移籍はキャリア形成につながるか？：女子サッカー選手における現状と課題」

14:25 岸本肇（神戸大学名誉教授）

「旧東ドイツの『逃亡サッカー選手』の育ちと、思想・行動

：Jürgen Sparwasserの『自伝』をもとにして」

口頭発表⑨／会場 4号館 301

座長：依田充代（日本体育大学）

15:00 鈴木秀人（東京学芸大学）

「運動部における暴力的行為の継承に関する一考察：『軍隊起源説』の再検討（その2）」

15:25 千葉直樹（北翔大学）

「アメリカ人バスケットボールコーチの指導観に関する研究

：日本人バスケットボールコーチとの指導観の違いに着目して」

口頭発表⑩／会場 4号館 302

座長：松島剛史（立命館大学）

15:00 柚木茉莉杏（岡山大学）

「スポーツのLIVE映像を集団視聴する体験

：選手の地元で開催されたパブリック・ビューイングの観戦者調査を通して」

15:25 上代圭子（東京国際大学）

「稼げるスタジアムとしてのVIPエリアの活用に関する研究」

口頭発表⑪／会場 4号館 301

座長：杉本厚夫（関西大学）

16:00 菅原大志（東北大学大学院）

「スポーツイベントの受容と定住志向：大会ボランティアの非協力的行動に着目して」

16:25 大沼義彦（日本女子大学）

「オリンピックと開発のレガシー：2012年ロンドン大会の事例から」

口頭発表⑫／会場 4号館 302

座長：海老原修（横浜国立大学）

16:00 山中大輔（東京学芸大学大学院）

「『筋トレ』というスポーツライフの誕生」

16:25 津吉哲士（関西福祉科学大学）

「体育・スポーツにおける科学知としての「栄養」に関する考察：第2次大戦後の資料を対象として」

口頭発表⑬／会場 4号館 301

座長：黒須充（順天堂大学）

17:00 橋本剛幸（近畿大学生物理工学部）

「防災対策活動とスポーツイベントのコラボレーション

：防災への意識とスポーツへの意識の融和、今後の課題と方向性」

17:25 安井大樹（筑波大学大学院）

「総合型地域スポーツクラブ研究における認識論的課題：スポーツとクラブの関係に着目して」

第 69 回大会 専門領域企画シンポジウム

日 時：2018 年 8 月 25 日（土） 9:00～11:50

会 場：徳島大学常三島キャンパス 4 号館 301

テーマ：体育の未来予想図と社会学的想像力

司 会：菊 幸一（筑波大学）

演 者：白井 俊（文部科学省）

「コンピテンシー育成と身体性 — OECD/Education2030 における議論を踏まえて」

内田 良（名古屋大学）

「運動部活動の展望 — 制度設計なき活動の現状から考える」

松田 恵示（東京学芸大学）

「人工知能時代の体育と遊び — 『生きることを面白くする力』の創造」

趣 旨：日本の教育が今、大きく変わり始めている。政策的側面からは、知識や技能の習得を重視する「コンテンツ・ベース」の教育観から、資質や能力の習得を重視する「コンピテンシー・ベース」の教育観への転換が模索されている。AI や IoT などの技術が社会のイノベーションを起こしつつある中で、「第四次産業革命」や「Society 5.0」といった社会像の予測が打ち出されるとともに、そのような社会における「教育の高度情報化」と「高度情報化社会における教育のあり方」などが次世代教育の課題とされている。他方では、「教員の働き方改革」が社会的に大きな課題として取り上げられる反面、学校に求められる役割はさらに複雑化・多様化しており、例えば、地域との連携・協働による部活動改革・学校改革や、従来の学校・教師文化からの解放、あるいは制度の見直しと再構築など、現場レベルでの軋みの拡大と、だからこそ待った無しの課題解決が探られてもいる。

このように、いわば「学校」を再定義しようとする社会的動機が強まる現在、「体育」という教育的営みに対して、今後、どのような「未来予想図」を描くことになるのだろうか。教科、特別活動、生徒指導、部活動、学社連携、社会体育など、「体育」という教育活動は、その範囲や様々な意味での影響も大きい。本シンポジウムでは、「コンピテンシー育成と身体性」「学校文化と部活動」「人工知能と遊び」などの観点から、大きな変化を求められている教育制度としての、広い意味での今後の「体育」の姿について、システム、価値(目的/内容)、学習指導、スポーツ活動、学校/地域/家庭の連携・協働、教員・指導者育成などの具体的な問題にも引き寄せつつ、「社会学的想像力」を働かせてみたい。

第 69 回大会発表形式

- ・第 69 回大会（徳島大学）における本領域の発表数は、口頭発表 32 演題、ポスター発表 4 演題です。
- ・口頭発表は 1 演題あたり 25 分間（発表 15 分間、質疑応答 10 分間）です。
- ・ポスター発表では座長の進行により、各自 10 分間のプレゼンテーション後、設定時間内でのフリーディカッションを行います。
- ・詳細につきましては第 69 回大会プログラムをご参照ください。

専門領域名	形式	発表時間	質疑・応答時間
体育社会学	口頭	15	10
	ポスター	10	時間内フリーディスカッション

「年報体育社会学（仮称）」の原稿募集について

本専門領域では、新たな機関誌を創刊すべく創刊準備委員会を中心に準備を進めておりますが、下記のとおり創刊号の原稿募集開始日と原稿締切日が決定していますので、会員の皆様にご案内をさせていただきます。原稿執筆要項等は本年8月の学会総会後に公表いたします。

会員の皆様の多くの投稿をお待ちしております。

原稿募集開始：2018年10月1日（月）

原稿締切日：2019年5月31日（金）

創刊：2020年3月末

事務局より

1. 会員動向

体育社会学専門領域の会員数は、2018年7月20日現在382名です。

2. 会員情報変更

日本体育学会会員の名簿管理は学会本部が行っております。勤務先の移動、住所・所属などの変更があった場合には、すみやかに「会員情報変更届」（『体育学研究』に添付）を学会本部事務局にFAXまたは封書で送付してください。学会本部とともに専門領域事務局にもメールでご連絡いただくと助かります。

3. 会則および諸規程等の改訂版について

諸規程等の改訂版は、随時専門領域ホームページに掲載していますので、ご確認ください。

事務局メールアドレス（松尾）tmatsuo@rikkyo.ac.jp

（水上）mizukami5.h@gmail.com

4. 2018年度学会大会について

日本体育学会大70回大会

日程：2019年9月10日（火）、11日（水）、12日（木）

会場：慶応義塾大学日吉キャンパス

あとがき

日本全国で猛暑と異常気象が記録されています。こうした出来事は、会員諸氏にとっては日常的な体育実技や地域におけるスポーツ活動との関わりで深刻な問題として感じられているのかもしれませんが。ここは従来の精神主義からは距離をおき、体育やスポーツの実践においてプレーヤーたちの安全や健康が何よりも優先されることを今一度確認したいものです。

東京オリンピック・パラリンピックの開催まで残すところ 2 年となりました。しかし国内のスポーツに関する話題は、残念ながら暴力やハラスメントなどが中心になってしまっています。これまでに内閣府から出された勧告 11 件のうち半数以上の 7 件がスポーツ関連の公益法人なのだそうです。**Brackenridge & Kirby (1997)** によれば、競技者が成功と失敗のはざまに位置する時、指導者への依存が高まり、指導者の不適切な行為が生じるリスクが高まります。オリンピック自国開催に向けた 2 年間はこうしたリスクがこれまで以上に高まる時期でもあります。アスリートの記録やパフォーマンスといった表面的な部分だけではなく、スポーツ統括団体のガバナンスに、そしてスポーツ実践の内情に目を向け続けていく必要があるでしょう。

日本体育学会の各領域がまだ分科会と呼ばれていた頃に体育社会学専門分科会の会長を務められた桑野豊先生がご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。また追悼文をお寄せくださった杉本会員にお礼を申し上げます。

(高峰修)